

令和5年度
文化協会報

令和6年3月

大島地区文化協会連絡協議会

祝！「薩南諸島の黒糖製造技術」
登録無形民俗文化財登録



奄美市名瀬文化協会
創立50周年記念式典・祝賀会
(奄美市)



思勝集落豊年祭祈願 (トネヤ)
(大和村)



「ゆめときめき鹿児島ねんりん大会」
芸能大会出演時
(宇検村)



令和5年度 第6回瀬戸内町子ども文化祭
古仁屋高校書道部 書道パフォーマンス
(瀬戸内町)



龍郷町文化協会「文化祭」
(龍郷町)



第12回 災害被災地支援
チャリティーショー
(喜界町)



奄美群島日本復帰70周年記念
第44回 徳之島町文化祭
(徳之島町)



奄美群島日本復帰70周年記念
第41回 町民文化祭
(天城町)



第43回 伊仙町文化祭
(伊仙町)



劇団がじゅまるの歴史創作劇
「えらぶの日本復帰運動」
(和泊町)



知名町生涯学習フェスティバル 前夜祭
(知名町)



銀座通り感謝祭
(与論町)

目 次

- あいさつ
大島地区文化協会連絡協議会会長 境 賢勇 1
- 奄美市名瀬文化協会の活動について
奄美市文化協会会長 境 賢勇 2
- 集落で受け継がれている伝統行事
大和村文化協会会長 中山 昭二 4
- 宇検村文化協会の活動について～湯湾八月踊り保存会～
湯湾八月踊り保存会員 渡 博文 6
- 文化協会の活動及び令和4年度 第5回瀬戸内町子ども文化祭について
瀬戸内町文化協会会長 城山 洋子 8
- 龍郷町文化協会の活動～会員自ら作り上げるイベントをめざして～
龍郷町文化協会事務局 10
- 第12回災害被災地支援チャリティーショーを開催して
喜界町文化協会会長 外内 千里 12
- 『朗読って楽しいよ！』～朗読の楽しさや素晴らしさを伝えたい～
朗読サークル「いきゅんDo」 向井 久貴 15
- 天城町文化協会の活動について
～奄美群島日本復帰70周年記念 第41回町民文化祭～
天城町文化協会事務局 永野 延浩 18
- 島唄・踊り保存会「われら阿三」～伝統文化の保存・継承～
伊仙町中央公民館 松田 博樹 20
- 和泊町文化協会活動について～令和5年度の文化事業の取組について～
和泊町文化協会 会長 山下 幸秀 21
- 知名町文化協会の活動状況
知名町文化協会事務局 24
- 与論民謡の継承と新しい芸能の構築に向けて
～太鼓と三線の音で島を盛り上げながら～
与論舞弦鼓代表 小高 明日香 28

あいさつ

大島地区文化協会連絡協議会
会長 境 賢勇

各市町村文化行政担当課及び各市町村文化協会の皆様におかれましては、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。

また、当協議会の事業に対しまして、日頃から御理解と御協力をいただき、深く感謝申し上げます。

この一年を振り返ってみますと、新型コロナが感染症法上の5類へ移行し、長引くコロナ禍を経て、伝統行事や文化活動が再開された年でありました。また、奄美群島日本復帰70周年という記念すべき一年として、「奄美群島日本復帰70周年記念」の冠称を付した行事や関連イベントが群島内各地で開催され、奄美群島の日本復帰の歴史的な意義を広く発信しながら、奄美の誇る伝統文化の継承活動に島民一体となって取り組む機運が醸成された年でした。

昨年7月には、高校生による芸術文化活動の祭典である「第47回全国高等学校総合文化祭鹿児島大会（2023かごしま総文）」が開催され、「伝承芸能」と「和太鼓」の2部門からなる「郷土芸能部門」は、奄美市において実施されました。多彩な地域文化が息づく奄美で、郷土芸能への熱い思いをもった全国各地の高校生を始めとする多くの観客を前に、沖永良部高校のエイサーや奄美高校のシマ唄、八月踊り等奄美の誇る郷土芸能が披露されたことは、大きな喜びでありました。

また昨年9～10月にかけては、県指定無形民俗文化財の「油井の豊年踊り」や「徳之島町井之川夏目踊り」のほか、各地の豊年祭や十五夜祭りが4年ぶりに開催されました。豊かな自然とそこに暮らす人々によって育まれてきた伝統行事や踊りが、群島各地区・集落で継承されていることは、地域文化の振興につながることはもとより、地域住民の大切な交流の場であることを改めて深く感じました。

さらに、今年2月には、好評を博した「ほこらしゃ奄美音楽祭」が昨年引き続き開催されました。世界自然遺産に登録された奄美の独自の文化であるシマ唄の魅力が発信されるとともに、奄美大島で結成され活動している「奄美オーケストラ」との初共演や地域でのミニコンサート、子ども向け演奏教室の開催を通して、島の子どもから大人までが一流の音楽に触れ、アーティストと交流を深める貴重な機会になりました。

大島地区文化協会連絡協議会におきましても、平成19年度から2月18日を「方言の日」と定めたほか、これまで奄美地域のことわざや伝統文化、郷土料理についてのポスターを作成してきたところです。

大島地区文化協会連絡協議会としましては、今後とも、奄美の文化の振興と伝承に努めてまいりますので、関係の皆様には、御協力を賜りますようお願いいたします。

奄美市名瀬文化協会の活動について

奄美市文化協会会長 境 賢勇

1 はじめに

奄美市文化協会は、「奄美市名瀬文化協会」、「奄美市住用文化協会」、「奄美市笠利文化協会」の3団体で構成されており、奄美市名瀬文化協会は、昭和48年（1973）6月に創立され、令和5年（2023）に創立50周年を迎えました。

2 結成のねらい

- ① 各グループ間の相互理解と交流を深めること。
- ② 総合的な発表や展示会の開催で平素の学習と研鑽内容を充実させることができること。
- ③ 文化活動への総合的な理解を深めること。

3 主な活動内容

- ① 総会，定例役員会，勉強会，発表会，文化祭，芸能祭などの企画運営，会報発行
- ② 大島地区広域文化祭への参加
- ③ 各地区史跡巡り，各地区文化協会との交流

4 沿革

昭和48年（1973年）創立総会（創立当時15団体（412人））

平成5年（1993年）「県芸術文化奨励賞」受賞

平成10年（1998年）創立25周年記念式典・祝賀会 開催

平成18年（2006年）奄美市文化協会発足（名瀬市・住用村・笠利町合併に伴う）

令和4年（2022年）県民文化フェスタ in あまみ 2022 開催

5 令和5年度の活動

令和5年は創立50周年の節目を記念した多くの記念事業を行いました。

① 創立記念 G・ゴルフ大会

7月28日（金）にマングローブ G・ゴルフ場において創立記念 G・ゴルフ大会を開催し会員60名が参加しました。

② 奄美市名瀬文化協会創立50周年記念 第45回奄美市民文化祭

- ・ 開催期間 11月1日（水）～11月5日（日）まで
- ・ 参加団体 作品展示 16団体
舞台発表 46団体
- ・ 入場者数 約5,000人



③ 記念式典・祝賀会

12月12日（火）に奄美観光ホテルで記念式典・祝賀会を開催し、来賓14名と会員約120名が参加しました。

- ・ 表彰者 団体表彰 39 団体
 役員表彰者 8 名
 個人表彰者 6 名



④ 記念誌の発行

創立50周年記念事業の総括として、令和6年（2024）1月に記念誌を発行しました。

6 成果と今後の課題

現在、少子高齢化に伴い、本市も人口減少しており、会員の高齢化、会員減少傾向にあります。特にこの5年間はコロナ蔓延による団体活動の自粛、練習環境の悪化により会の廃止、会員の脱会などで協会加入団体が減少し文化の危機的状況にあります。

若年層の参加、後継者の育成や質の向上等、課題は山積しています。

今後とも文化協会の強化に取り組んでいく決意であり、関係機関や加盟各団体のご協力を頂きながら課題克服に努力していきたくと思います。

集落で受け継がれている伝統行事

大和村文化協会会長 中山 昭二

1 はじめに

私たち大和村には 11 の集落がありますが、古くから続いてきた伝統行事が諸事情により途絶えた集落もあり、淋しい気持ちになります。しかし、その中で 4 集落においては豊年祭以外にその集落独自の伝統行事が今も残っています。今回は、その中から湯湾釜集落の「ムチモレ踊り」を紹介したいと思います。この「ムチモレ踊り」は、大和村で一番古い歴史をもち、明治以前から続いていると伝えられていますが、それよりも相当古い時代から続く集落伝統行事であるという説もあります。ですので、私たち大和村文化協会ではこの歴史ある集落文化が途絶えないように見守っていこうと考えております。

2 趣旨（祭りの目的）

(1) 防火思想の啓発と無病息災を願う。

旧暦 10 月の初めの（庚申、かのえさる）の日に行う。（諸事情で前後に実施することもある）

(2) 集落の水利問題を考える機会とする。

(3) 子供から老人まで参加することができる。

(4) 青年たちへ祭りの歴史を高齢者から聞くことができる。

(5) 歴史ある祭りを行うことで集落の輪を保つ。

(6) 近隣に住む出身者も参加することで全員が楽しめる祭り。

3 祭りの概要

昔、湯湾釜集落は水利が悪いため、一旦火災が発生すると大火となり、最後には田んぼの泥を投げ込み消火したことがこの行事の由来です。そして、水の大切さを伝えるために、泥団子を模して餅が作られるようになったそうです。各家庭で作られたカシャ餅は、祭りに参加している若者や見物にきている人々に配られます。

4 活動（祭り当日）

湯湾釜集落は、昭和 30 年代に集落独自で水源地から樋（とい）を通した水道を整備しています。祭り当日の朝は、水路（農業用水）の清掃と修繕を行います。陽が暮れてくると祭りは始まり、日が変わる頃まで続きます。若い男性が女性ものの浴衣を着て、ふろしきで顔を隠し、三味線とチジンに合わせテンポよく男女の掛け合い唄に合わせて踊ります。ムチモレ踊りの唄は 30 番までであるといわれていますが、2 番まで紹介したいと思います。

【ムチモレ踊りの唄】

1 番

うずめずうめしよしいら 物のしられ しょうおろな
うずで 家戸開けて ふえ 入れて たぼれ
はらどんどんじゃ さまえととさんせー

2 番

あさと湯湾から 餅貰れが じゃおたな あたらしゃ ありんしょうちん
ふえ くれて たぼれはらどんどんじゃ さまえととさんせー

旧笠利町のカネサル行事（種おろし）のムチモレ唄とよく似ています。

【餅もれ唄（ムチモレ唄）】

種おろしよんち 餅もれがきよおてな
むちくれてたぼれ 祝ておすろ
はらどんどんじゃ こらとうさんせー



令和 5 年 11 月

5 おわりに

湯湾釜集落がなぜ途絶えることなくこの祭りが続いたのか、考えると先祖から脈々と続けられてきた伝統文化を絶やしてはならないという集落の強い思いがあるのと、常にリーダーがいたことが考えられます。毎年祭りをを行うことにより、集落は強い連帯感が生まれ、集落運営もよい方向に進んでいると思われれます。大和村文化協会は、このムチモレの伝統文化を模範とし、他の集落を激励しなくてはと考えています。先ごろ新聞で、文化や伝統が消えれば集落が味気ない土地になる、という記事がありましたが、まさにそのとおりだと思います。

宇検村文化協会の活動について

～湯湾八月踊り保存会～

湯湾八月踊り保存会員 渡 博文

1 はじめに

令和5年は、新型コロナウイルス感染症がようやく5類に移行され、コロナ禍前の日常が戻り、宇検村においては14の全集落で伝統の豊年祭が開催され八月踊りも復活し、地域住民の笑顔を見ることができた。

改めてコミュニケーションの大切さ、その中心が地域の文化であることを知ることができた一年だった。

2 趣旨（湯湾八月踊り保存会）

湯湾集落は世帯数250戸、人口463人（令和5年11月末現在）の宇検村の中心地で、集落一番の伝統行事は9月（旧暦のアラスイツィ）の豊年祭であり、八月踊り・唄である。

シマ唄は個人が三味線を奏でて唄うのに対し、八月踊り・唄は参加者全員で男女掛け合う踊り・唄であることが違いであり特徴でもある。

3 概要（湯湾八月踊り保存会）

20年以上前は集落の人口も多く、八月踊りや唄を知っている人が多かったが、高齢化や方言を使えない若者の増加で、年々唄い手やツイヅイン（太鼓）の打ち手が少なくなってきた状況があった。その後、現在の宇検村文化協会会長の直三男也氏が帰郷されて、平成19年に湯湾八月踊り保存会が結成されたのを機会に、継承活動が動き出し現在に至っている。

4 活動実績

	行事名	場所
令和5年毎月	八月踊り・唄の練習及び継承	湯湾生活会館
令和5年9月8日	「ゆめときめき鹿児島ねんりん大会」芸能大会（大島地区代表）	鹿児島市民文化ホール
令和5年9月17日	湯湾集落豊年祭	アシャゲ
令和5年11月19日	宇検村生涯学習推進大会・文化祭	村元気の出る館
その他	大島地区教育委員会連絡協議会総会で出演 等	

5 活動状況

【ゆめときめき鹿児島ねんりん大会・芸能大会出演時】



【宇検村生涯学習推進大会・文化祭出演時】



6 成果と今後の課題

50歳代～60歳代までの女性の後継者が増えたことで活気が増したが、10年先を見据えた継承を考えたとき、関心を持つ若者も多く後継者不足ではないが、20歳代～50歳代を一人でも多く保存会に参加してもらえるようにすることが、今後は重要な課題である。

7 おわりに

湯湾集落の八月踊りは、「ながね」や「くずし」を含めると36の曲数となり、宇検村内では芦検集落の次に多い踊り・唄がある。それぞれの歌詞を解釈してみると恋愛、礼節や教え、喜びや悲しみ等、様々な感情が込められていて非常に勉強になる。方言や歌詞の意味も含め、これからも八月踊り・唄を引き継いでいけるよう活動していきたいと思う。

文化協会の活動及び令和4年度 第5回瀬戸内町子ども文化祭について

瀬戸内町文化協会会長 城山 洋子

【はじめに】

瀬戸内町文化協会は、地域文化の創造発展と併せて会員相互の親睦を図り、地域文化の振興に寄与することを目的としています。令和5年度は、加盟団体数37団体463名の会員で活動を行っています。新型コロナウイルス感染症の影響で3年ぶりに開催し、町民の皆様から「すごく楽しみに待っていました」などの温かいお声もいただき、文化には楽しさや感動、精神的なやすらぎをもたらす効果があるということをあらためて実感いたしました。令和元年度に協会の自主事業として第1回目を開催し、今回で5回目となりました。伝統文化及び芸術の担い手育成及び継承活動として、今後も引き続き地域文化を発信していきたいと思っております。

瀬戸内町文化協会加入団体数・会員数の推移

区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
加盟団体数	37団体	38団体	35団体	35団体	37団体
会員数	591名	517	543	543	463

【活動組織】

部門毎に理事を選出し、文化協会の目的達成のため協議し、活動に向けています。

また、事業推進のため実行委員会を立ち上げ活動を行っています。

【事業内容】

- ・地域文化の継承、保存活動
- ・各種発表会及び展示会
- ・八月踊り大会
- ・文化祭
- ・地域文化の継承・保存活動助成金交付

【今年度の活動内容】

- ・瀬戸内町文化祭
- ・子ども文化祭
子ども文化祭での舞台発表及び展示



中学生のピアノ演奏



瀬戸内金管バンドの演奏

【 今後の課題 】

瀬戸内町には、それぞれの集落において、古くから伝わる独自の伝統芸能があります。

集落での豊年祭などでは演じられていますが、高齢化や人口減少、なによりコロナの影響で豊年祭が中止になるなど発表の場面が失われつつあります。文化祭以外に伝統芸能部門に特化したイベントの企画などあらたな取り組みも検討し、地域文化の保存・発展の中心的役割を担っていきたいと思います。

また、令和5年度から補助金を増額してもらい、文化に関わる担い手の育成事業を実施しており、次代に繋げる環境の構築に努めております。

龍郷町文化協会の活動

～会員自ら作り上げるイベントをめざして～

龍郷町文化協会事務局

1 はじめに

龍郷町文化協会は、地域の文化の創造発展をはかり、文化団体相互の連絡と親睦を深め郷土の文化の振興に寄与する事を目的としている。

2 龍郷町文化協会「文化祭」の趣旨・目的

龍郷町文化協会「文化祭」では、本町文化協会に加盟している団体による独自の創作、演技の発表の場として、本町伝統文化の継承と底辺拡大を呼びかけ、町民が一体となって楽しむ事を趣旨としている。

3 「文化祭」の活動状況

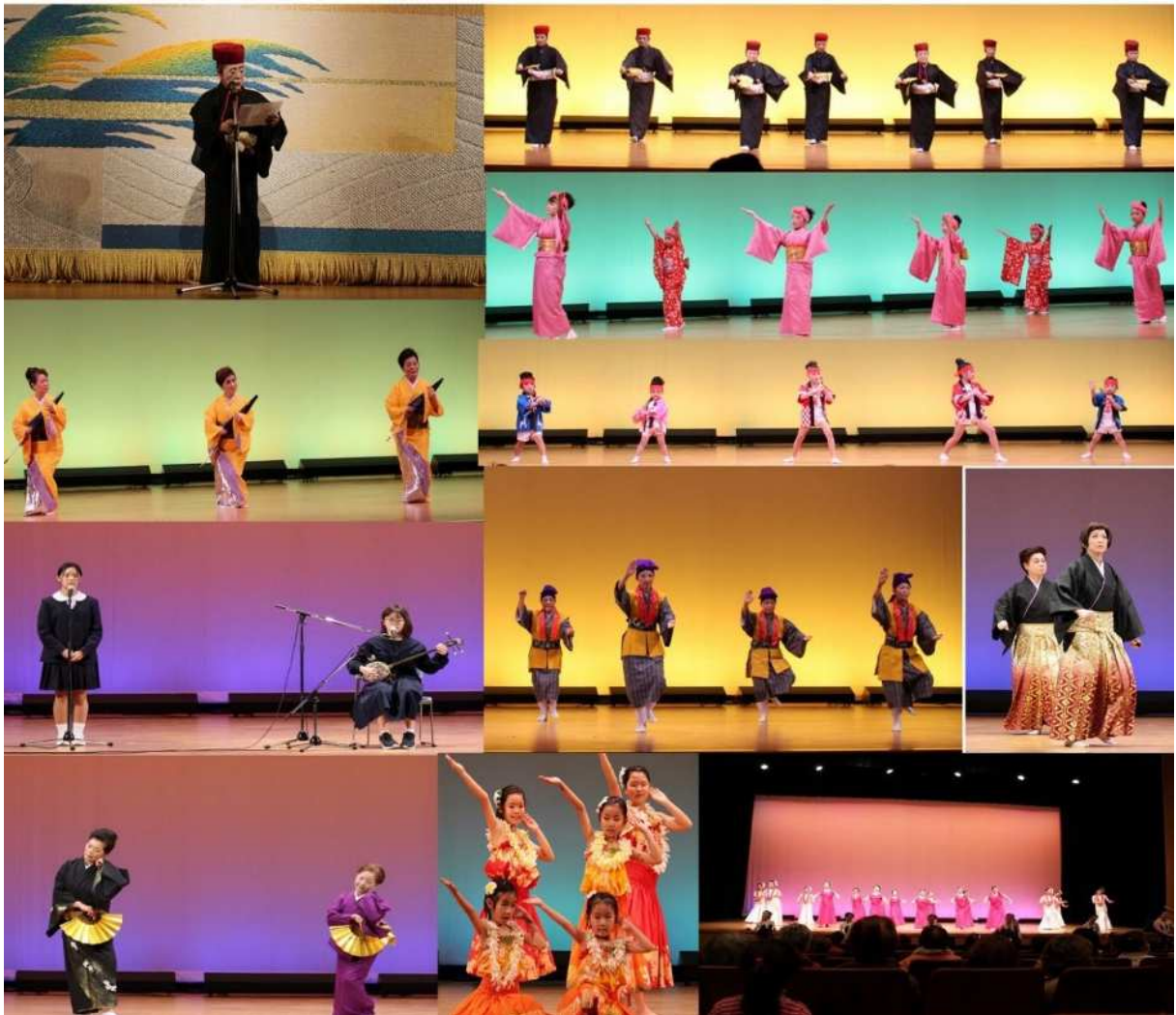
龍郷町文化協会主催で行っているイベントということで、本町文化協会に加盟している団体のみが出演できるということで、チケットの販売から広報活動、当日は、教育委員会からもサポートしてもらいながらイベントを開催している。



文化祭タイムスケジュール

11月10日	第1回文化祭打合せ会	出演団体の確認
12月11日	第2回文化祭打合せ会	プログラム・練習日の抽選 チケット配布
1月9日～25日	りゅうゆう館にて各団体練習	
1月23日	全体リハーサル	18:30 から 20:20
1月26日	広報活動	奄美新聞/南海日日新聞社
1月28日	本番	

～文化祭の様子～



4 成果と今後の課題

新型コロナウイルスの影響で中止や縮小での開催が続き、通常開催は4年で、以前と比べると出場団体が減ってしまった。しかし、今年度は、7団体で約2時間30分のプログラムを作ることができた。

今後は、もう少し早い段階から計画をして、運営していけるようにしたい。

5 おわりに

このイベントに出演する会員もいいステージを披露出来るよう、日々稽古に励んでいる。今後も、町民が一体となって楽しむ場を提供したい。

第12回災害被災地支援チャリティーショーを開催して

喜界町文化協会会長 外内 千里

1 はじめに

平成23年3月11日午後2時46分に発生した三陸沖を震源としたマグニチュード8.8の巨大地震は被災した現地はもとより、日本全国を大混乱に陥れました。テレビを見ると、港から徐々に潮が引いていき、今度は大波が押し寄せ建物を次々飲み込んで行く、自衛隊のヘリの中継では、波が川に沿って上流へ押し寄せる様が、今でも脳裏に焼き付いて離れません。

このような状況で、私達に被災地の支援はできないかと考えた時、文化協会の一員である私達にできる事は、「東日本大震災被災地支援チャリティーショー」での義援金で支援をすることでした。これまでの文化協会の活動は、町内9つの各小学校校区で順番に、各小学校校区で傳承されている伝統芸能の発掘と、日頃舞台を見る機会が無い方々へ芸能に親しんでもらうための「地域文化祭」の開催や、夏祭り協賛会主催の「演芸歌謡ショー」、町が開催する「しま興し祭り」、「生涯学習推進大会」の舞台出演が主な活動の場でしたが、学校再編で地域文化祭開催の継続が困難になり、また町の行財政改革によるしま興し祭りの取りやめで、会員の出演機会が少なくなる中、新たな舞台となったのがチャリティーショーでした。

コロナの影響での3年間は開催出来ませんでした。今年は無事開催することが出来ました。それぞれの団体はコロナの猛威の中でも会員関係者だけの出演機会を創るなど、練習機会を工夫されており、充実した舞台を演じておりました。最後の六調で大いに盛り上がり、久々の感動する舞台演出が出来ました。

2 プログラム

第12回災害被災地支援チャリティーショープログラム

日 時：令和5年5月28日（日）13：00 開場 13：30 開演

場 所：休養村管理センター 司会：澤田のぞみ

入場料：無料（募金箱を設置しますので皆様からの募金をお願いします。）

順番	出演者（団体）	種目	演目	開始時間
1	琴城流大正琴	大正琴	さとうきび畑 島のブルース	13時30分
2	文化協会会長 教育長	挨拶	開会挨拶 来賓挨拶	13時42分
3	喜界歌謡サウンド	歌謡	函館の女 残波	13時47分

4	喜界子供エイサー	エイサー	仲順流り 滝落とし 県道節 新時代	14時00分
5	一条流翠香会	日本舞踊	峠越え	14時09分
6	はまゆうコーラス	合唱	遠き山に日は落ちて	14時16分
7	喜界島民謡保存会	しま唄	志戸桶まんこい節 伊実久ばしゃ山節 田植え唄	14時21分
		休憩		10分
8	月下美人	大正琴	はた織り娘 お月さん今晚は	14時43分
9	アヌエヌエ・フラ教室	フラダンス	アロハユー レイコエラ マリーゴールド 糸	14時54分
10	喜界島ウインドアンサンブル	吹奏楽	シマロンスケッチ ラジオ体操第一	15時11分
11	手話サークルミミ	手話	たしかなこと (小田和正)	15時11分
12	吾妻流藤豊会	日本舞踊	朱雀	15時30分
13	喜界島太鼓	太鼓	打ち合わせ太鼓 踊り打ち	15時40分
14	奄美芸能島唄研究会	民謡	朝花節 豊年節 喜界やよい島	15時55分
15	続六調太鼓	太鼓	六調	16時10分
16	文化協会副会長	閉会挨拶		16時15分

3 活動状況

平成24年4月15日に第1回のチャリティーショーを開催し、入場料、募金から実費除き、喜界町社会福祉法人を通じて東日本大災害被災地支援として寄付致しました。令和元年の第8回まで毎年喜界町文化協会の年間活動として開催し、書き損じハガキを提供していただき「日本ユネスコ協会連盟」へ送付するなど活動を広げて参りました。残念ながら令和2年～4年の3年間はコロナのため開催を断念しましたが、今年度は5月28日に第12回を開催致しました。第1回の義援金は、町民の関心も高く、金額も30万円を超えましたが、その後は毎年10万円前後を推移しております。また寄付金の対象も大震災の被災地が落ち着きを取り戻したことで、

その後の平成 28 年の熊本地震等の災害もあり，今では寄付先の対象を被害の状況に応じて変えております。

4 成果と課題

チャリティーショー開催の目的は，東日本大震災を教訓に「自然災害の脅威を忘れず日頃から備える」，「人と人の助け合いの大切にする」，「文化活動の充実し活動を高める」を目的としてしております。それぞれの団体が出演の機会を求めており，活動が助け合いに繋がることで，意識の高揚に繋がるのではないのでしょうか。

今後も加盟団体の活動内容充実，出演機会の確保をはかり，活動の継続を図っていただければと思っています。

5 最後に

令和 6 年 1 月は，年始早々に石川県を中心とする地震災害が発生し，多くの人たちが災害に遭われております。また羽田空港では，支援物資を搭載した海上保安庁の飛行機と JAL の飛行機が衝突し，JAL の乗客 367 名は，乗務員 12 名の日頃の訓練による的確な誘導により無事脱出し，あわや大惨事となる事態は避けられましたが，海上保安庁職員 6 名中 5 名の方が亡くなるという痛ましい事故が発生しております。災害は何時何処で起こるかわかりません。私たちは肝に銘じなければなりません。

最後に被害に遭われた方々にお見舞い申し上げますと共にご冥福をお祈りします。



『朗読って楽しいよ！』

～朗読の楽しさや素晴らしさを伝えたい～

朗読サークル「いきゅん Do」 向井 久貴

1 はじめに

「東日本大震災」があった年の9月に、朗読サークル「徳之島町文化会館」が立ち上がりました。未曾有の大災害に対して、微力な私たちにできることは何かを考えた結果、それは「日常に希望を持って精一杯生きることだ。」と。そして、あの災害からちょうど一年の平成24年3月11日に、第1回朗読サークル発表会を「希望 明日へ」というテーマで開催しました。その後、その朗読サークルを母体として、現在の朗読サークル「いきゅん Do」が平成24年4月に発足しました。

2 趣旨

ITの発達によるデジタル社会においては、活字離れが危惧されています。また、音楽も書籍も電子化され、個々がひとりで楽しむ世界になってしまいました。今だからこそ、とてもアナログな、それも紙でできた媒体を読むことの大切さを広めていきたいです。

朗読によりみんなが笑顔になり、楽しさを分かち合い、伝えあうことの大切さをこのサークルでは学んでいます。朗読の対象は絵本・詩・島の昔話・朗読劇と多岐にわたります。

3 概要

週1回の練習を、町の施設で行っています。活動は、年1回の発表会（今までに8回開催）、学校や施設を訪問しての朗読、町立図書館や町文化会館等町の行事への参加と活動の場を広げています。

4 活動組織

会員は10名 練習は基本的に週1回

5 サークルのあゆみ

日付	内容（発表会のテーマや出し物など）
平成23年9月6日	朗読サークル「徳之島文化会館」立ち上げ
平成24年3月11日	第1回朗読サークル発表会「希望 明日へ」
平成24年4月	朗読サークル「いきゅん Do」発足
平成25年7月28日	第2回「いきゅん Do」発表会 「お母さん そしてつながる生命」

平成 27 年 2 月 22 日	第 3 回「いきゅん Do」発表会 「命をありがとう みんなちがってみんないい」
平成 27 年 12 月 6 日	第 4 回「いきゅん Do」発表会 「生きる 平和ってすてきだね」
平成 28 年 12 月 3 日	第 5 回「いきゅん Do」発表会 「何気ない日々感謝 生きる力をありがとう」
平成 29 年 12 月 3 日	第 6 回「いきゅん Do」発表会「ふるさと つながる想い」
平成 30 年 11 月 17 日	第 7 回「いきゅん Do」発表会 「ありがとう 昨日と明日をつなぐ今」
令和元年 12 月 15 日	第 8 回「いきゅん Do」発表会 「おやゆびさん・スーホの白い馬・ヨイトマケの唄」

6 令和 5 年度の活動内容及び計画

日付	活動内容（参加イベントおよび出し物）
令和 5 年 10 月 28 日	第 22 回大島地区ふれあい読書フェスタ ～「月光の夏」～
令和 5 年 11 月 3 日	徳之島町文化祭 ～「パパイヤとマンジョウマイ」～
令和 5 年 11 月 5 日	奄美群島日本復帰 70 周年記念のつどい ～「1953 年に対する期待」～
令和 5 年 11 月 11 日	西阿木名地区アカギの木コンサート ～「ユイ結いレターコンクール作品集」～
令和 5 年 12 月 1 日	徳之島平和コンサート ～「北緯 29 度線」～
令和 6 年 2 月 17 日	家庭教育学級（中学校）朗読

7 活動内容

年 1 回の全体発表会の内容は、絵本・島の昔話・詩・音楽・群読・朗読劇など多岐にわたります。また、文化祭はもとより、町図書館や町の行事・島内の学校や施設・イベントなどでの朗読にも力を入れています。朗読劇は単なる朗読でなく、効果音や音楽、小道具や衣装も取り入れ、各語り手があたかもお芝居のように演じます。

週 1 回の練習では発声練習から始まり、様々な本を読みます。個々が好きな絵本などを持ち寄って読み比べをしたり、本の感想を述べたりします。新しく会員になった方で、最初声が小さかった人も、練習を重ねるうちに、笑顔で自分を表現できるようになりました。休憩中はみんなが笑顔であふれ、冗談を言い合ったりしています。



大島地区ふれあい読書フェスタ



徳之島町文化祭



奄美群島復帰70周年
記念のつどい

8 成果と今後の課題

朗読は、みんなが心を一つにしないとできません。練習でうまくできないときでも、本番でうまくできることがあります。これは、個々が見えないところで(家庭で)練習をしている賜物だと思います。

今後の課題は、会員を増やすことです。朗読劇を行うには、朗読をする話し手だけでなく、それを支えるスタッフも必要です。広報活動に力を入れて仲間を増やしていきたいです。

9 おわりに

これからも現在の朗読を基本に、色々なことに挑戦していきたいです。例えば、島外での発表会は行ってみたいです。他の地区の朗読の関係者とも交流ができれば、なお良いと思います。

また、朗読の題材も今までのものにプラスして、日本や外国の名作・童話・コミック・落語などあらゆるジャンルに挑戦していくつもりです。島の方言を使った朗読も考えてみたいです。夢は大きく広がります。

天城町文化協会の活動について

～奄美群島日本復帰 70 周年記念 第 41 回町民文化祭～

天城町文化協会事務局 永野 延浩

1 はじめに

天城町文化協会は、町民の文化活動及び文化事業の振興と連帯感の育成を図り、町民の豊かな文化の創造・発展と元気な町づくりに寄与することを目的とし、活動をしている。

今年度は、新型コロナウイルスの感染リスクも軽減され、以前のような活気を取り戻した一年となった。

また、奄美群島日本復帰 70 周年という節目の年でもあり、先人より受け継いだ伝統文化・郷土芸能を後世に継承していかなければならない。

2 活動内容

	行 事 名	場 所
令和 5 年 8 月	徳之島民謡大会	徳之島町文化会館
令和 5 年 11 月	第 41 回町民文化祭	防災センター
令和 5 年 12 月	ひと足早いわくわくお年玉コンサート	防災センター
令和 6 年 3 月	霧島国際音楽祭 in 天城町	防災センター

3 活動状況

天城町文化協会は 27 団体・3 個人で組織されており、生涯学習講座や自主グループ講座、集落公民館などで活動し、町民文化祭や生涯学習閉講式等の場で日頃の練習の成果を発表している。

今年度の主な活動として、8 月の徳之島民謡大会を皮切りに、町民文化祭やひと足早いわくわくお年玉コンサートなどを開催した。

なかでも町民文化祭は、文化協会の一大イベントであり、前日の作品展示から当日の運営までみんなで協力し、開催することができた。





4 成果と今後の課題

町民文化祭終了後に、中高生のみんなが進んで後片付けや掃除をする姿は、指導者の人材育成の成果であった。

課題である会員の高齢化や指導者不足が解消できるよう、後継者育成・若手の発掘に力を入れ、伝統文化の継承・保存や文化芸術活動に努めたい。

また、文化協会が自立し、独自でイベント等を開催できるよう指導・助言していきたい。

5 おわりに

第41回町民文化祭は令和元年度以降4年ぶりに開催され、舞台発表や作品展示など1年間の活動の成果を発表した。開催前日は、22時頃まで練習するなど、成功に向けみんなで協力し、観客を前に久しぶりの緊張感と達成感を味わうことができた。

出演者の演技に対する情熱や笑顔、舞台発表を通して地域を盛り上げる姿は、いつも私たちを元気づけてくれる。

昨年までは、日々感染の不安を抱えながら活動自粛の日々が続いたが、このように再び一緒に集まることができることに喜びを感じ、そして、未来に向けて前進する勇気と希望を抱くことができた。

島唄・踊り保存会「われら阿三」

～伝統文化の保存・継承～

伊仙町中央公民館 松田 博樹

1 伝統文化の概要

昭和初期に集落の若者達が団結と豊作を願い詩にした。三味線・太鼓・歌に合わせて軽快に踊る。この歌は集落独自のもので、他では歌われない。40年程前に保存同好会が結成されました。

2 保存会の内容

- ・ 歌を継承するために島唄・三味線教室を開き後継者の育成
- ・ 小学校行事や高齢者施設の訪問及び地域・集落行事への参加交流
- ・ 町主催の夏祭り等への参加

3 活動内容

	行事名	場所
令和5年8月	徳之島民謡大会	徳之島町文化会館
令和5年9月	小学校運動会	伊仙町立鹿浦小学校
令和5年11月	伊仙町ほーらい祭り	伊仙町面縄港

4 活動状況



和泊町文化協会活動

～令和5年度の文化事業の取組について～

和泊町文化協会 会長 山下 幸秀

1 はじめに

和泊町文化協会は、和泊町民謡同好会、和泊舞踊同好会、国頭民謡保存会、吾館遊び踊り保存会、沖永良部教師美術同好会等がひとつの大きな組織へと発展し、昭和51年12月14日に設立されて、今年で48年になります。

現在は、伝承舞踊7団体、民謡3団体、日本舞踊3団体、琉球舞踊（器楽太鼓）3団体、エイサー1団体、コーラス1団体、劇団2団体、その他3団体の計23の加盟団体により活動しており、本町文化活動の中心となって、各種文化事業を主催しています。

2 文化協会活動紹介

今年度は新型コロナウイルス感染症の感染法上の位置付けが、インフルエンザ同様5類の分類となり、行動制限など様々な活動が緩和され、これまで開催できなかった各種行事等も徐々に実施できるようになってきました。

令和5年度 和泊町文化協会 活動計画		
月 日	行 事 名	場 所
令和5年7月29日（土）	文化協会発表会（港まつり前夜祭）	役場庁庭
令和5年11月3日（金）	文化と福祉の祭典（舞台発表）	あかね文化ホール
令和5年11月12日（日）	第4回全島ヤッコ踊り大会	あしびの郷・ちな
令和5年12月17日（日）	第40回沖永良部音楽コンクール	あかね文化ホール
令和6年2月11日（日）	子ども芸能発表会	あかね文化ホール
令和6年2月15日（木） ～令和6年2月18日（日）	文化と福祉の作品展	やすらぎ館

(1) 文化協会発表会（港まつり前夜祭）

港まつり前夜祭が開催されたことにより、文化協会発表会も小学生から一般まで 12 団体約 130 名が出演し、前夜祭を賑やかに盛り上げていただきました。



(2) 文化と福祉の祭典（舞台発表）

文化協会加盟団体を中心に、伝承舞踊・民謡・日本舞踊・琉球舞踊・コーラス等が多彩な演目を披露し、多くの町民が文化芸能の魅力・楽しさ・素晴らしさを感じる舞台となりました。

(14 団体 15 演目 約 102 名出演)



(3) 第 40 回沖永良部音楽コンクール

知名町と合同で開催している本大会は、31 名の児童生徒が緊張感漂う雰囲気の中で、日頃の練習の成果を発揮しました。(ピアノ部門 21 名・アンサンブル部門 1 組・ソロ部門 3 名)



(4) 和泊町文化協会団体活動助成

自主的に行う公演及び活動発表や、島外における公演等の助成を行うため、「和泊町文化協会団体活動助成金」の交付を行っております。

「和泊町文化協会団体活動助成金」交付要項

助成金額	協会が必要と認める経費の3分の2又は10万円のうち少ない金額(ただし、上限額は予算の範囲内とする。)
助成対象	① 島内において自主的に行う公演・作品展示・講習会・講演会など一般を対象とした事業 ② 島外において行う公演・活動発表(自主的・招待を問わない。)
助成対象団体	協会に加盟して1年以上経過し、且つ、会費の未納がない団体

※ 令和5年度は、自主公演を実施及び実施予定の2団体に助成をする予定としています。

3 おわりに

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が、インフルエンザ同様5類の分類となり、行動制限など様々な活動が緩和され、コロナ禍以前と同様に文化協会主催事業を開催することができました。

観客を動員して開催するイベントであり、出演者にとっても観客にとっても多くの感動を味わうことができた活動になったと思います。今後も文化活動を継続していくことで、町民が心豊かな生活を送れるようにしていきたいと思います。

しかし、会員の高齢化や事業のマンネリ化、運営の中心である文化協会青年部の減少、教育委員会事務局への運営依存など、今後検討や見直しが必要な課題が多くあります。

今後は、イベントに参加する加盟団体が、「自分達が文化協会の一員である」という自覚を持ってイベント運営に協力するとともに、文化協会青年部の増員のために、若手の育成に励んでいきたいと思います。また、団体の技芸を磨くために、積極的な自主公演の開催や新たな事業の企画運営、継続して行われているイベントの改革・刷新、島外文化協会等との交流も図りたいと思います。

先人達から受け継いだ貴重な伝承(島唄・踊り・方言)芸能を永遠に途絶えることがないように次世代へ継承し、島の芸能に誇りを持って本町文化活動の推進に努力し、楽しく協力し合える団結ある文化協会を目指したいと考えています。

知名町文化協会の活動状況

知名町文化協会事務局

1 はじめに

知名町文化協会は、文化を愛する方々の思いと努力により昭和50年6月に設立され、今年で44年になる。設立当初は、22団体でスタートし、町内で活動する文化団体が相互に密接な連携を取り、活動の発表、相互啓発等を通じ自主的な文化活動を促進してきた。併せて町文化行政と協力し、郷土文化の振興及び町民の文化創造の気運を醸成、促進することを目的とし、現在では、舞台部門25団体（休会2団体）、展示部門5団体の30団体、約500名の会員で活動を行っている。

令和2年度から始まる新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ禍」）の影響により、文化協会事業の中止が相次いだ。令和5年度はコロナ禍以前の形式で、事業を行うことができた。コロナ禍の3年間を振り返りながら報告する。

2 令和5年度文化協会主催事業の紹介

知名町文化協会では、子供から大人まで幅広く参加してもらえるようなイベントを開催しています。

月 日	事 業 名	場 所	備 考
5月27日	第21回五月の祭典	あしびの郷・ちな	青年部主催
8月26日	第27回ふるさと夏祭り	役場横駐車場	前夜祭ステージ
11月4日 ～11月5日	町生涯学習フェスティバル	あしびの郷・ちな 町民体育館	前夜祭ステージ 展示部門
11月25日	知名町子ども芸能祭	あしびの郷・ちな	
12月17日	沖永良部音楽コンクール	あかね文化ホール	和泊町開催
2月17日	第26回島唄・島ムニ大会	あしびの郷・ちな	

(1) 五月の祭典

青年部が中心となって企画・運営を行っている。コロナ禍により、令和2年度、3年度は中止となり、令和4年度は制限付き（入場及び座席等）で開催。令和5年度は、制限なしのコロナ禍以前の形式で、開催することができた。出演は10団体、ゲストは、島内外で活躍している地元の島唄グループ「遊弦会せりよさ」。「せりよさ」とは、古琉球時代の沖永良部島の古名である。



(奄美新聞社提供)



(南海日日新聞社提供)



(2) ふるさと夏祭り前夜祭ステージ

令和2年度、3年度は夏祭りが中止となった。4年度は開催されたものの、前夜祭は中止となった。実行委員会の配慮により、本祭典の舞台上で文化協会から2団体が出演した。

令和5年度は、コロナ禍以前の形式で開催することができ、7団体が出演した。台風の影響により、夏祭り日程は変更となった。



(3) 知名町生涯学習フェスティバル

令和2年度、3年度は規模を縮小して開催されたが、文化協会主催の前夜祭は中止となった。令和4年度は感染対策を講じながら、文化協会前夜祭として開催することができた。

令和5年度は制限なしで開催され、文化協会主催の前夜祭は、14団体の出演があった。展示会場では、文化協会加盟団体のほか、公民館講座、各種団体及び個人の展示が行われた。



(4) 知名町子ども芸能祭

令和2年度，3年度は中止。令和4年度は，コロナ禍が収まりつつあった11月下旬の日程であったことから，ほぼ制限なしで開催された。

令和5年度は，8団体，約70人の子どもたちによって，開催された。



(5) 島唄・島ムニ大会

現在消滅危機にある、大切な文化遺産や島の方言、島唄を見直し、後世に伝え残すことを目的として開催され、26回目を迎えた。大切な方言等の継承のために、各地域の方言や歌、踊りなどの伝統文化の発表を行っている。

令和2年度は中止となったが、3年度、4年度はコロナ対策を講じながら、開催。5年度は通常どおりの開催となり、学校、育成会、放課後児童クラブ、公民館講座、個人など、12団体、約110名の出演があった。



3 成果と課題

加盟団体の会員の高齢化が進む中で、青年部を中心に文化協会主催のイベントを運営したり、また青年部独自の主催イベントなど開催するなど連携が取れている一方で、毎年恒例のイベント等がマンネリ化したり、参加者が減少しているイベント等もあつたりするため、若い意見と先輩方の経験を活かし、文化協会全体で知恵を出し合いながら協力し、文化協会のさらなる活性化と伝統文化の継承等への支援を継続していきたい。

コロナ禍の中で、五月の祭典、子ども芸能祭、島唄島ムニ大会などのYouTube配信を行ってきた。今後も、継続したい。

与論民謡の継承と新しい芸能の構築に向けて

～太鼓と三線の音で島を盛り上げながら～

与論舞弦鼓代表 小高 明日香

1 はじめに

エイサーチーム舞弦鼓は、与論島出身の有馬 淳（ありま すなお）らが、平成16年に神奈川県川崎市で立ち上げました。その後、一緒に立ち上げた仲間が、平成19年に「関西舞弦鼓」を設立。続いて有馬のUターンに伴い、平成22年、与論島にて「与論舞弦鼓」を設立しました。現在は、関東(川崎中心)、関西(東大阪)、与論島の三拠点で活動中です。

令和5年11月で設立13年目を迎えた私たち「与論舞弦鼓」ですが、はじめの10年は土台作りと試行錯誤の日々でした。沖縄の文化である「エイサー」をベースに、与論の唄や奄美群島の唄で新しく振り付けを創り、地謡（唄三線）や太太鼓も当時は珍しく女性が担当するなど、常識に囚われず様々なチャレンジをして創り上げて来ました。また、自分たちよりずっと前から活動している「ゆんぬエイサー」との差別化、島での認知、女性と子供が多いメンバー構成の中でどれだけ迫力が出せるかなど、工夫を重ねてきました。

そしてこれからの10年は、飛躍の時期ととらえ、島の芸能を担っていく存在としてさらなる成長を目指し、笛や和太鼓を取り入れた演舞や演出などにも力を入れて活動しています。

2 活動の趣旨

- ・ 与論民謡でエイサーを踊ることにより、島民が島の唄を聴く機会を作る。
- ・ 与論民謡の新しい魅力を打ち出し興味を持ってもらうことで、島民に自分たちの文化の素晴らしさに気づいてもらう。
- ・ 三線と太鼓の音で島を明るく元気にする。
- ・ 踊り（舞）・三線（弦）・太鼓（鼓）を組み合わせ、与論が誇れる新しい芸能を創っていく。

3 概要

「舞弦鼓」について

- ・ 平成16年11月に川崎市にて「エイサーチーム舞弦鼓」発足
- ・ 平成19年11月東大阪市石切に「関西舞弦鼓」を設立
- ・ 平成22年8月鹿児島県与論町に「与論舞弦鼓」を設立

「与論舞弦鼓」について

- ・ 未就学児～60代まで約40名が在籍
- ・ 練習は、毎週土曜日 19:30～21:00、日曜日 14:00～15:30

4 活動状況

与論舞弦鼓の基本的な出演機会は、毎年5月初頭（GW 期間）に与論町の銀座通り商店街で行われる「銀座通り感謝祭」、毎年8月中旬「ヨロンサンゴ祭」、今年から開催が2月になった「与論町文化祭」です。近年は、この3つのイベントに新しいチャレンジができるよう標準を合わせて練習しています。その他の島内イベント・個人のお祝い等でも依頼を受けた際には演舞させて頂いています。

【過去1年間の主な出演（個人依頼は割愛させていただきます）】

令和4年（2022年）11月	大島地区広域文化祭 in 喜界島
令和5年（2023年）1月	与論町二十歳の集い
令和5年（2023年）2月	与論島音楽祭
令和5年（2023年）4月	ヨロンつながるアースデイ
令和5年（2023年）4月	与論町町制60周年記念式典
令和5年（2023年）5月	銀座通り感謝祭
令和5年（2023年）7月	朝戸元気まつり
令和5年（2023年）8月	ヨロンサンゴ祭
令和5年（2023年）8月	国頭村まつり
令和5年（2023年）8月	与論未来フェス
令和5年（2023年）11月	奄美群島地区植樹祭
令和5年（2023年）11月	特定地域づくり事業協同組合全国フォーラム in ヨロン

5 成果と今後の課題

活動の趣旨である「三線と太鼓の音で島を明るく元気に」という点は、成果として挙げられるのではないかと実感しています。演舞をして皆さんの喜んでくれる顔、楽しそうな姿を見られたときに、活動していてよかったと心から感じています。

舞弦鼓の課題としては、若い世代や男性メンバーが少ないことです。若い世代や男性メンバーが活躍することで、演舞により迫力が出て盛り上がるので、一緒に活動したいと思えるようなチームづくりをしていきたいと思えます。

また与論島の課題としては、民謡の衰退が挙げられます。現在与論では、民謡を唄える人も聴ける場所も少なくなっているため、舞弦鼓の活動を通して民謡を聴ける機会を作っていきたいです。

6 おわりに

活動の趣旨の項で「与論舞弦鼓」として目指していることを書かせて頂きましたが、活動する中で私たちが何より大事にしているのは、「自分たちがまず楽しむこと」です。これまでの活動では辛い時期、楽しむことを忘れてしまった時期もありました。だからこそ今は、「自分たちが楽しんでなければ人を楽しませることはできない」と胸に刻んで活動しています。高みを目指しながらも無理はせず、家庭・仕事・別の趣味も大事に。出来ないときはやらなくていい。そんな風にちゃんと自分を大事にしながら、舞弦鼓としてさらに進化出来るように活動していきます。今後とも応援よろしくお願い致します。